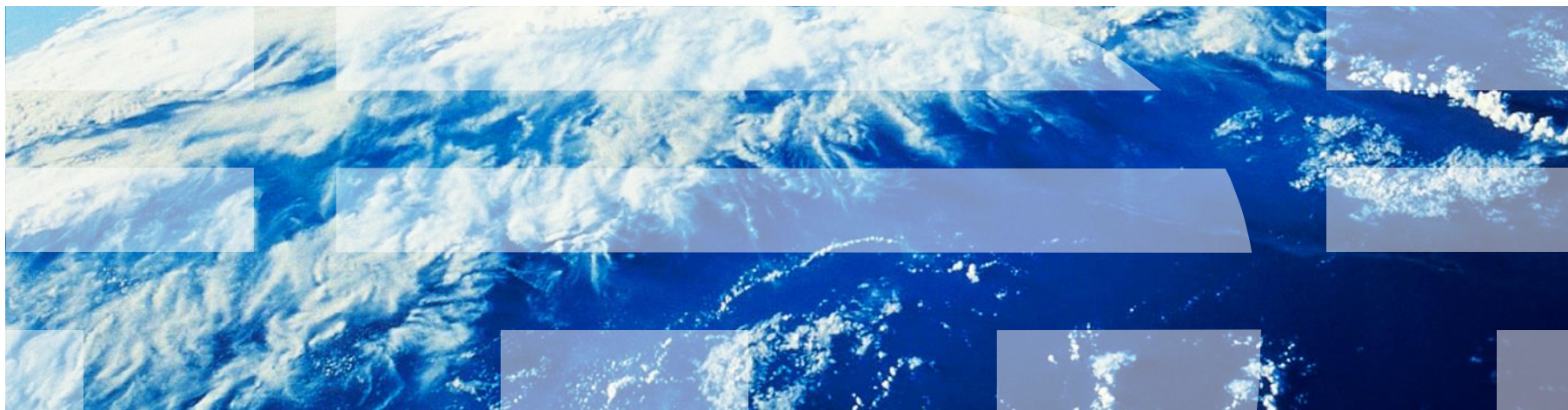


IBM Worklight V6.1.0

入門

アダプター・ベースの認証



商標

- IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- この資料は、事前に IBM の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製することは禁じられています。

IBM® について

- <http://www.ibm.com/ibm/us/en/> を参照してください。

アジェンダ

- アダプター・ベースの認証の概要
- authenticationConfig.xml ファイルの構成
- サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成
- クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成
- 結果の確認
- 演習
- 確認テスト

アダプター・ベースの認証の概要

- アダプター・ベースの認証は、実装時の柔軟性が最も高い認証タイプであり、Worklight® Server 認証フレームワークのあらゆるメリットが含まれています。
- アダプター・ベースの認証を使用する場合は、簡潔な JavaScript™ を使用して、資格情報の検証を含む認証ロジック全体をアダプターに実装できます。
- ただし、追加の認証レイヤーとして任意のログイン・モジュールをアダプター・ベースの認証で使用することもできます。
- このモジュールでは、ユーザー名とパスワードに依存するアダプター・ベースの認証メカニズムを実装します。

アジェンダ

- アダプター・ベースの認証の概要
- authenticationConfig.xml ファイルの構成
- サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成
- クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成
- 結果の確認
- 演習
- 確認テスト

authenticationConfig.xml ファイルの構成

- authenticationConfig.xml ファイルの <realms> セクションに2つの認証レルムを追加します。

```
<realm loginModule="AuthLoginModule" name="SingleStepAuthRealm">
  <className>com.worklight.integration.auth.AdapterAuthenticator</className>
  <parameter name="login-function" value="SingleStepAuthAdapter.onAuthRequired"/>
  <parameter name="logout-function" value="SingleStepAuthAdapter.onLogout"/>
</realm>
<realm loginModule="AuthLoginModule" name="DoubleStepAuthRealm">
  <className>com.worklight.integration.auth.AdapterAuthenticator</className>
  <parameter name="login-function" value="DoubleStepAuthAdapter.onAuthRequired"/>
  <parameter name="logout-function" value="DoubleStepAuthAdapter.onLogout"/>
</realm>
```

- これらのレルムでは AuthLoginModule ログイン・モジュールを使用しますが、この定義は後で行います。

authenticationConfig.xml ファイルの構成

- authenticationConfig.xml ファイルの <realms> セクションに 2 つの認証レームを追加します。

```
<realm loginModule="AuthLoginModule" name="SingleStepAuthRealm">  
  <className>com.worklight.integration.auth.AdapterAuthenticator</className>  
  <parameter name="login-function" value="SingleStepAuthAdapter.onAuthRequired"/>  
  <parameter name="logout-function" value="SingleStepAuthAdapter.onLogout"/>  
</realm>  
<realm loginModule="AuthLoginModule" name="DoubleStepAuthRealm">  
  <className>com.worklight.integration.auth.AdapterAuthenticator</className>  
  <parameter name="login-function" value="DoubleStepAuthAdapter.onAuthRequired"/>  
  <parameter name="logout-function" value="DoubleStepAuthAdapter.onLogout"/>  
</realm>
```

- com.worklight.integration.auth.AdapterAuthenticator クラスを使用すると、オーセンティケーターのサーバー・サイド部分がアダプターで定義されることとなります。

authenticationConfig.xml ファイルの構成

- authenticationConfig.xml ファイルの <realms> セクションに 2 つの認証レルムを追加します。

```
<realm loginModule="AuthLoginModule" name="SingleStepAuthRealm">
  <className>com.worklight.integration.auth.AdapterAuthenticator</className>
  <parameter name="login-function" value="SingleStepAuthAdapter.onAuthRequired"/>
  <parameter name="logout-function" value="SingleStepAuthAdapter.onLogout"/>
</realm>
<realm loginModule="AuthLoginModule" name="DoubleStepAuthRealm">
  <className>com.worklight.integration.auth.AdapterAuthenticator</className>
  <parameter name="login-function" value="DoubleStepAuthAdapter.onAuthRequired"/>
  <parameter name="logout-function" value="DoubleStepAuthAdapter.onLogout"/>
</realm>
```

- Worklight 認証フレームワークが保護リソースへのアクセスの試行を検出すると、**login-function** パラメーターで定義されているアダプター関数が自動的に呼び出されます。
- (明示的なものであれ、セッション・タイムアウトによるものであれ) ログアウトが検出されると、**logout-function** が自動的に呼び出されます。
- どちらの場合も、パラメーター値の構文は `adapterName.functionName` です。

authenticationConfig.xml ファイルの構成

- ログイン・モジュールを authenticationConfig.xml ファイルの <loginModules> セクションに追加し、AuthLoginModule という名前を付けます。

```
<loginModule name="AuthLoginModule">  
  <className>com.worklight.core.auth.ext.NonValidatingLoginModule</className>  
</loginModule>
```

- NonValidatingLoginModule クラス名を使用すると、Worklight プラットフォームによる追加検証が実行されなくなるため、開発者の責任においてアダプター内の資格情報の検証を行う必要があります。
- 認証関連のアクションはすべてアダプター・コードで実行されるので、アダプター・ベースの認証では NonValidatingLoginModule を使用することが必須となります。

authenticationConfig.xml ファイルの構成

- セキュリティー・テストを authenticationConfig.xml ファイルの <securityTests> セクションに追加します。
- このセキュリティー・テストを使用してアダプター・プロシージャールを保護する必要があるため、これを <customSecurityTest> にします。

```
<customSecurityTest name="SingleStepAuthAdapter-securityTest">  
  <test isInternalUserID="true" realm="SingleStepAuthRealm"/>  
</customSecurityTest>  
<customSecurityTest name="DoubleStepAuthAdapter-securityTest">  
  <test isInternalUserID="true" realm="DoubleStepAuthRealm"/>  
</customSecurityTest>
```

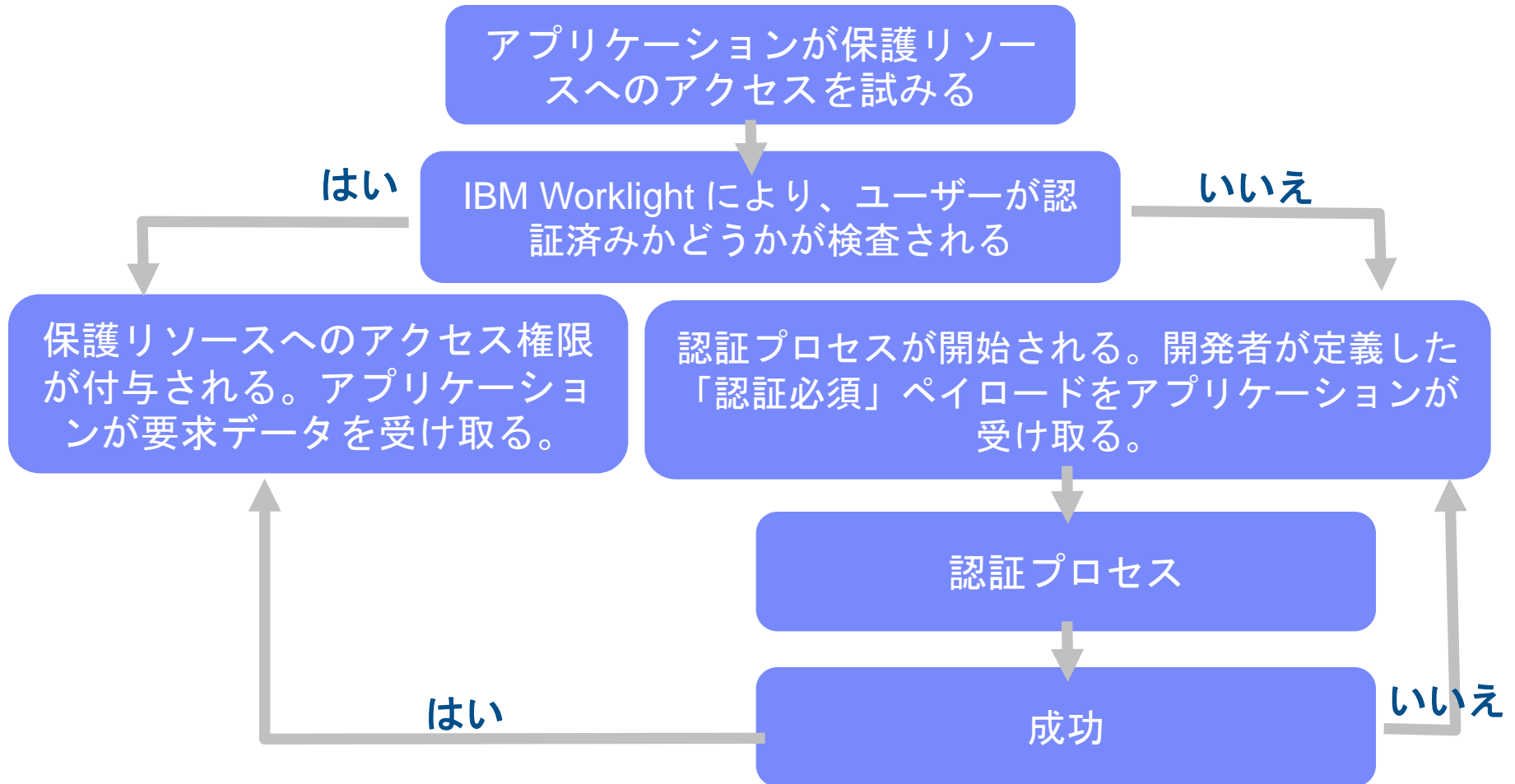
- セキュリティー・テスト名を覚えておいてください。以降のスライドで、それらの名前を使用する必要があります。

アジェンダ

- アダプター・ベースの認証の概要
- authenticationConfig.xml ファイルの構成
- サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成
- クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成
- 結果の確認
- 演習
- 確認テスト

サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成

- 以下のダイアグラムは、アダプター・ベースの認証プロセスを示しています。



サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成

- このトレーニング・モジュールで紹介する例では、2つのアプリケーションと2つのアダプターを使用します。以降のスライドでは、SingleStepAuth アプリケーションおよびアダプターに焦点を当てます。DoubleStepAuth アプリケーションおよびアダプターは、同じ手法を拡張したものにすぎません。
- 認証プロセスを扱うアダプターを作成し、**SingleStepAuthAdapter** という名前を付けます。
- **SingleStepAuthAdapter** には、以下の2つのプロシージャが含まれます。

```
<procedure name="submitAuthentication"/>  
  
<procedure name="getSecretData" securityTest="AdapterSecurityTest"/>
```

- submitAuthentication プロシージャは認証プロセスを扱います。このプロシージャの呼び出しに認証は必要ありません。
- ただし、2番目のプロシージャは、認証されたユーザーしか使用できません。

サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成

- 以下のダイアグラムは、実装フローを示しています。



サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成

- IBM Worklight フレームワークが保護リソースへの非認証アクセスの試行を検出すると、そのたびに `onAuthRequired` 関数が呼び出されます (この動作は、`authenticationConfig.xml` の定義に基づいています)。

```
function onAuthRequired(headers, errorMessage) {  
    errorMessage = errorMessage ? errorMessage : null;  
    return {  
        authRequired: true,  
        errorMessage: errorMessage  
    };  
}
```

このオブジェクトは、アプリケーションに送信されるカスタム・チャレンジ・オブジェクトです。

- この関数は、応答ヘッダーとオプションの `errorMessage` パラメーターを受け取ります。この関数によって返されるオブジェクトは、クライアント・アプリケーションに送信されます。
- `authRequired: true` というプロパティに注意してください。チャレンジ・ハンドラーでこのプロパティを使用して、サーバーが認証を要求していることを検出します。

サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成

- クライアント・アプリケーションによって `submitAuthentication` 関数が呼び出され、ユーザー名とパスワードが検証されます。

```
function submitAuthentication(username, password){  
  if (username==="worklight" && password === "worklight"){  
  
    var userIdentity = {  
      userId: username,  
      displayName: username,  
      attributes: {  
        foo: "bar"  
      }  
    };  
  
    WL.Server.setActiveUser("SingleStepAuthRealm", userIdentity);  
  
    return {  
      authRequired: false  
    };  
  }  
  
  return onAuthRequired(null, "Invalid login credentials");  
}
```

ユーザー名とパスワードは、アプリケーションからパラメーターとして受け取ります。

サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成

- クライアント・アプリケーションによって submitAuthentication 関数が呼び出され、ユーザー名とパスワードが検証されます。

```
function submitAuthentication(username, password){  
  if (username==="worklight" && password === "worklight"){  
  
    var userIdentity = {  
      userId: username,  
      displayName: username,  
      attributes: {  
        foo: "bar"  
      }  
    };  
  
    WL.Server.setActiveUser("SingleStepAuthRealm", userIdentity);  
  
    return {  
      authRequired: false  
    };  
  }  
  
  return onAuthRequired(null, "Invalid login credentials");  
}
```

この例では、ハードコーディングされた値との照合によって資格情報が検証されますが、それ以外の検証 (例えば、SQL や Web サービスを使用した検証など) も実行できます。

サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成

- クライアント・アプリケーションによって `submitAuthentication` 関数が呼び出され、ユーザー名とパスワードが検証されます。

```
function submitAuthentication(username, password){  
  if (username==="worklight" && password === "worklight"){  
    var userIdentity = {  
      userId: username,  
      displayName: username,  
      attributes: {  
        foo: "bar"  
      }  
    };  
    WL.Server.setActiveUser("SingleStepAuthRealm", userIdentity);  
    return {  
      authRequired: false  
    };  
  }  
  return onAuthRequired(null, "Invalid login credentials");  
}
```

検証が正常に行われると、`WL.Server.setActiveUser` API が呼び出され、`userIdentity` オブジェクトに格納されているユーザー・データを使用して `SingleStepAuthRealm` の認証済みセッションが作成されます。独自のカスタム・プロパティをユーザー ID 属性に追加できることに注意してください。

サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成

- クライアント・アプリケーションによって `submitAuthentication` 関数が呼び出され、ユーザー名とパスワードが検証されます。

```
function submitAuthentication(username, password){  
  if (username==="worklight" && password === "worklight"){  
  
    var userIdentity = {  
      userId: username,  
      displayName: username,  
      attributes: {  
        foo: "bar"  
      }  
    };  
  
    WL.Server.setActiveUser("SingleStepAuthRealm", userIdentity);  
  
    return {  
      authRequired: false  
    };  
  }  
  
  return onAuthRequired(null, "Invalid login credentials");  
}
```

認証画面が不要になったことを示すオブジェクトがアプリケーションに送信されます。

サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成

- クライアント・アプリケーションによって `submitAuthentication` 関数が呼び出され、ユーザー名とパスワードが検証されます。

```
function submitAuthentication(username, password){  
  if (username==="worklight" && password === "worklight"){  
  
    var userIdentity = {  
      userId: username,  
      displayName: username,  
      attributes: {  
        foo: "bar"  
      }  
    };  
  
    WL.Server.setActiveUser("SingleStepAuthRealm", userIdentity);  
  
    return {  
      authRequired: false  
    };  
  }  
  
  return onAuthRequired(null, "Invalid login credentials");  
}
```

資格情報の検証に失敗すると、`onAuthRequired` 関数によって作成されたオブジェクトが、対応するエラー・メッセージとともにアプリケーションに返されます。

サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成

- トレーニングを目的としているため、この例の `getSecretData` 関数は、ハードコーディングされた値を返します。なお、`getSecretData` がセキュリティー・テストにより保護されている (このことはアダプター XML で定義されている) ことに注意してください。
- `onLogout` 関数は **authenticationConfig.xml** ファイル内での定義に従って、(クリーンアップを実行する場合などの) ログアウト時に自動的に呼び出されます。

```
9 function getSecretData(){
1     return {
2         secretData: "A very very very very secret data"
3     };
4 }
5
6 function onLogout(){
7     WL.Logger.debug("Logged out");
8 }
9
```

アジェンダ

- アダプター・ベースの認証の概要
- authenticationConfig.xml ファイルの構成
- サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成
- クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成
- 結果の確認
- 演習
- 確認テスト

クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成

- Worklight アプリケーションを作成します。
- このアプリケーションは、以下の 2 つの <div> エレメントで構成されます。
 - <div id="AppDiv"> エレメントは、アプリケーション・コンテンツの表示に使用します。
 - <div id="AuthDiv"> エレメントは、認証フォームのために使用します。
- 認証が要求されると、アプリケーションは AppDiv エレメントを非表示にして AuthDiv エレメントを表示します。認証が完了すると、アプリケーションは表示と非表示を逆にします。

クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成

- 最初に AppDiv エレメントを作成します。
- これには以下の基本構造と関数が含まれています。

```
<div id="AppDiv">  
  <div class="header">  
    <h1>Single Step Adapter Based Authentication</h1>  
  </div>  
  <input type="button" value="Get secret data" onclick="getSecretData()" />  
  <input type="button" value="Logout" onclick="WL.Client.logout('SingleStepAuthRealm', {onSuccess:WL.Client.reloadApp})" />  
  <div id="ResponseDiv"></div>  
</div>
```

- ボタンは、getSecretData プロシージャラーの呼び出しとログアウトに使用します。
- <div id="ResponseDiv"> は、getSecretData の応答の表示に使用します。

クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成

- AuthDiv エlementには以下のサブElementが含まれます。

```
<div id="AuthDiv" style="display:none">
  <div class="header">
    <h1>Single Step Adapter Based Authentication</h1>
  </div>
  <p id="AuthInfo"></p>
  <input type="text" placeholder="Enter username" id="AuthUsername"/><br />
  <input type="password" placeholder="Enter password" id="AuthPassword"/><br />
  <input type="button" value="Submit" id="AuthSubmitButton" />
  <input type="button" value="Cancel" id="AuthCancelButton" />
</div>
```

- AuthInfo は、エラー・メッセージを表示するために使用します。
 - AuthUsername および AuthPassword は、Elementを入力するために使用します。
 - AuthSubmitButton と AuthCancelButton。
- AuthDiv Elementのスタイルは、display:none に指定されています。これは、サーバーによって認証が要求される前に表示されてはならないためです。

クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成

- 最後に、チャレンジ・ハンドラーを作成します。
- 以下の API を使用してこのハンドラーを作成し、ハンドラーの機能を実装します。

```
var singleStepAuthRealmChallengeHandler = WL.Client.createChallengeHandler("SingleStepAuthRealm");

singleStepAuthRealmChallengeHandler.isCustomResponse = function(response) {
  if (!response || !response.responseJSON || response.responseText === null) {
    return false;
  }
  if (typeof(response.responseJSON.authRequired) !== 'undefined'){
    return true;
  } else {
    return false;
  }
};
```

WL.Client.createChallengeHandler()
API メソッドを使用してチャレンジ・ハンドラー・オブジェクトを作成します。レルム名はパラメーターとして指定する必要があります。

チャレンジ・ハンドラーを作成して、カスタマイズされた認証フローを定義します。認証フローと関係のない変更をユーザー・インターフェースに対して行うコードは、チャレンジ・ハンドラーに追加しないでください。

クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成

- 最後に、チャレンジ・ハンドラーを作成します。
- 以下の API を使用してこのハンドラーを作成し、ハンドラーの機能を実装します。

```
var singleStepAuthRealmChallengeHandler = WL.Client.createChallengeHandler("SingleStepAuthRealm");  
  
singleStepAuthRealmChallengeHandler.isCustomResponse = function(response) {  
    if (!response || !response.responseJSON || response.responseText === null) {  
        return false;  
    }  
    if (typeof(response.responseJSON.authRequired) !== 'undefined'){  
        return true;  
    } else {  
        return false;  
    }  
};
```

チャレンジ・ハンドラーの `isCustomResponse` 関数は、サーバーから応答を受け取るたびに呼び出されます。この関数を使用して、このチャレンジ・ハンドラーに関するデータが応答に含まれているかどうかを検出します。戻り値は、`true` または `false` です。

クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成

- 最後に、チャレンジ・ハンドラーを作成します。
- 以下の API を使用してこのハンドラーを作成し、ハンドラーの機能を実装します。

```
singleStepAuthRealmChallengeHandler.handleChallenge = function(response){  
    var authRequired = response.responseJSON.authRequired;  
  
    if (authRequired == true){  
        $("#AppDiv").hide();  
        $("#AuthDiv").show();  
        $("#AuthPassword").empty();  
        $("#AuthInfo").empty();  
  
        if (response.responseJSON.errorMessage)  
            $("#AuthInfo").html(response.responseJSON.errorMessage);  
    } else if (authRequired == false){  
        $("#AppDiv").show();  
        $("#AuthDiv").hide();  
        singleStepAuthRealmChallengeHandler.submitSuccess();  
    }  
};
```

isCustomResponse が true を返した場合、フレームワークは handleChallenge() 関数を呼び出します。この関数は、必要なアクション (例えば、アプリケーション画面の非表示、ログイン画面の表示など) を実行するために使用します。

クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成

- 最後に、チャレンジ・ハンドラーを作成します。
- 以下の API を使用してこのハンドラーを作成し、ハンドラーの機能を実装します。

```
singleStepAuthRealmChallengeHandler.handleChallenge = function(response){
    var authRequired = response.responseJSON.authRequired;

    if (authRequired == true){
        $("#AppDiv").hide();
        $("#AuthDiv").show();
        $("#AuthPassword").empty();
        $("#AuthInfo").empty();

        if (response.responseJSON.errorMessage)
            $("#AuthInfo").html(response.responseJSON.errorMessage);
    } else if (authRequired == false){
        $("#AppDiv").show();
        $("#AuthDiv").hide();
        singleStepAuthRealmChallengeHandler.submitSuccess();
    }
};
```

authRequires が true である場合には、ログイン画面が表示され、パスワード・フィールドがクリアアップされて、さらに、errorMessage があればそれが表示されます。

クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成

- 最後に、チャレンジ・ハンドラーを作成します。
- 以下の API を使用してこのハンドラーを作成し、ハンドラーの機能を実装します。

```
singleStepAuthRealmChallengeHandler.handleChallenge = function(response){  
    var authRequired = response.responseJSON.authRequired;  
  
    if (authRequired == true){  
        $("#AppDiv").hide();  
        $("#AuthDiv").show();  
        $("#AuthPassword").empty();  
        $("#AuthInfo").empty();  
  
        if (response.responseJSON.errorMessage)  
            $("#AuthInfo").html(response.responseJSON.error  
  
    } else if (authRequired == false){  
        $("#AppDiv").show();  
        $("#AuthDiv").hide();  
        singleStepAuthRealmChallengeHandler.submitSuccess();  
    }  
};
```

authRequired が false である場合には、AppDiv が表示されて AuthDiv が非表示になり、さらに、認証が正常に完了したことが Worklight フレームワークに通知されます。

クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成

- チャレンジ・ハンドラーには、開発者が実装しなければならないメソッドに加え、開発者が必要に応じて使用できる以下のような機能も含まれています。
 - `submitAdapterAuthentication()` 関数は、収集した資格情報を特定のアダプター・プロシージャーに送信するために使用します。この関数は、`WL.Client.invokeProcedure()` API と同じシグニチャーを持ちます。
 - `submitSuccess()` 関数は、認証が正常に終了したことを Worklight フレームワークに通知します。Worklight フレームワークはその後で、認証をトリガーした元の要求を自動的に発行します。
 - `submitFailure()` 関数は、認証が失敗に終わったことを Worklight フレームワークに通知します。Worklight フレームワークはその後で、認証をトリガーした元の要求を破棄します。

*** これらの各関数を対応するオブジェクトに付加する必要がある点に注意してください。例えば、次のように使用します。**

```
myChallengeHandler.submitSuccess()
```

クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成

- 送信ボタンをクリックすると、HTML 入力フィールドからユーザー名とパスワードを収集して、アダプターに送信する関数がトリガーされます。
- チャレンジ・ハンドラーでは、submitAdapterAuthentication メソッドが使用されることに注意してください。

```
$("#AuthSubmitButton").bind('click', function () {  
    var username = $("#AuthUsername").val();  
    var password = $("#AuthPassword").val();  
  
    var invocationData = {  
        adapter : "SingleStepAuthAdapter",  
        procedure : "submitAuthentication",  
        parameters : [ username, password ]  
    };  
  
    singleStepAuthRealmChallengeHandler.submitAdapterAuthentication(invocationData, {});  
});
```


アジェンダ

- アダプター・ベースの認証の概要
- authenticationConfig.xml ファイルの構成
- サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成
- クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成
- **結果の確認**
- 演習
- 確認テスト

結果の確認

AdapterAuthApp

Get secret data
Logout

AdapterAuthApp

Get secret data
Logout

AdapterAuthApp

Get secret data
Logout

```

{"responseID":"7","isSuccessful":true,"secretData":"very very very very secret data"}

```

アジェンダ

- アダプター・ベースの認証の概要
- authenticationConfig.xml ファイルの構成
- サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成
- クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成
- 結果の確認
- 演習
- 確認テスト

演習

- このトレーニング・モジュールの説明に従ってアダプター認証を実装します。
- このトレーニング・モジュールのサンプルは、以下からアクセスできる IBM® Worklight 文書 Web サイト (<http://www.ibm.com/mobile-docs>) の「入門」ページにあります。

アジェンダ

- アダプター・ベースの認証の概要
- authenticationConfig.xml ファイルの構成
- サーバー・サイドの認証コンポーネントの作成
- クライアント・サイドの認証コンポーネントの作成
- 結果の確認
- 演習
- 確認テスト

確認テスト (1/2)

- authenticationConfig.xml でアダプター・ベースの認証を使用するレルムを定義するときに、必須となる2つのパラメーターは次のどれですか。
 - login-function、logout-function
 - adapter-name、realm-name
 - adapter-name、login-function
 - login-function、login-module
- 認証レルムによって保護されるアダプター・プロシーチャーを開発者が指定する方法として、正しいのは次のどれですか。
 - 認証レルムがアダプター XML ファイルに指定されている場合は、すべてのアダプター・プロシーチャーがその認証レルムによって保護される。
 - 開発者が指定する必要はない。WL.Client.invokeProcedure を使用してこのプロシーチャーが動作するようにすれば、クライアント・サイドで認証資格情報が追加される。
 - securityTest プロパティをアダプター XML 内のプロシーチャー定義に追加する。
 - 認証レルムによってアダプター・プロシーチャーを保護することはできない。保護の対象はアプリケーションのみである。
- サーバーがクライアント要求に対して認証を必要としていることを検出するために使用するクライアント・サイド・メカニズムは次のどれですか。
 - challengeHandler.isAuthenticationRequired
 - challengeHandler.isUserAuthenticated
 - challengeHandler.analyzeServerResponse
 - challengeHandler.isCustomResponse

確認テスト (2/2)

- authenticationConfig.xml でアダプター・ベースの認証を使用するレルムを定義するときに、必須となる2つのパラメーターは次のどれですか。
 - login-function、logout-function
 - adapter-name、realm-name
 - adapter-name、login-function
 - login-function、login-module
- 認証レルムによって保護されるアダプター・プロシーチャーを開発者が指定する方法として、正しいのは次のどれですか。
 - 認証レルムがアダプター XML ファイルに指定されている場合は、すべてのアダプター・プロシーチャーがその認証レルムによって保護される。
 - 開発者が指定する必要はない。WL.Client.invokeProcedure を使用してこのプロシーチャーが動作するようにすれば、クライアント・サイドで認証資格情報が追加される。
 - securityTest プロパティーをアダプター XML 内のプロシーチャー定義に追加する。
 - 認証レルムによってアダプター・プロシーチャーを保護することはできない。保護の対象はアプリケーションのみである。
- サーバーがクライアント要求に対して認証を必要としていることを検出するために使用するクライアント・サイド・メカニズムは次のどれですか。
 - challengeHandler.isAuthenticationRequired
 - challengeHandler.isUserAuthenticated
 - challengeHandler.analyzeServerResponse
 - challengeHandler.isCustomResponse

特記事項

- これらの資料は、以下のご使用条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。
- 本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。
- 本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。
- IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。
 - 〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

- 以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
- この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。
- 本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。
- IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。
- 本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。
 - IBM Corporation
Dept F6, Bldg 1
294 Route 100
Somers NY 10589-3216
USA

- 本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。
- 本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。
- IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

著作権使用許諾:

- 本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほめめしたり、保証することはできません。
- それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生的創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。
 - © (お客様の会社名) (西暦年) このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. 年を入れる。 All rights reserved.

プライバシー・ポリシーの考慮事項

- サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。多くの場合、ソフトウェア・オファリングにより個人情報が収集されることはありません。IBM の「ソフトウェア・オファリング」の一部には、個人情報を収集できる機能を持つものがあります。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的な事項を確認ください。
- このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、(アプリケーション・サーバーが生成する) セッション情報を収集するセッションごとの Cookie を使用場合があります。これらの Cookie は個人情報を含まず、セッション管理のために要求されるものです。加えて、匿名ユーザーの認識および管理のために持続的な Cookie が無作為に生成される場合があります。これらの Cookie も個人情報を含まず、要求されるものです。
- この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(<http://www.ibm.com/software/info/product-privacy>) を参照してください。

サポートおよびコメント

- IBM Worklight の一連の文書、トレーニング資料、および質問をポストできるオンライン・フォーラムはすべて、次の IBM Web サイトからご覧になれます。
 - <http://www.ibm.com/mobile-docs>
- サポート
 - ソフトウェア・サブスクリプション & サポート (ソフトウェア・メンテナンスと呼ばれる場合もあります) は、パスポート・アドバンテージおよびパスポート・アドバンテージ・エクスプレスから購入されたライセンスに含まれています。International Passport Advantage Agreement および IBM International Passport Advantage Express Agreement の追加情報については、次のパスポート・アドバンテージ Web サイトを参照してください。
 - <http://www.ibm.com/software/passportadvantage>
 - ソフトウェア・サブスクリプション & サポートが有効になっている場合、IBM は、インストールおよび使用法 (ハウツー) に関する短期間の FAQ に対するサポートや、コード関連の質問に対するサポートを提供します。詳しくは、次の IBM ソフトウェア・サポート・ハンドブックを参照してください。
 - <http://www.ibm.com/support/handbook>
- ご意見
 - 本資料に関するご意見をお寄せください。本資料の具体的な誤りや欠落、正確性、編成、題材、または完成度に関するご意見をお寄せください。お寄せいただくご意見は、本マニュアルまたは製品の情報、およびその情報の提示方法に関するもののみとしてください。
 - 製品の技術的な質問および情報、および価格については、担当の IBM 営業所、IBM ビジネス・パートナー、または認定リマーカーターにお問い合わせください。
 - IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。IBM またはいかなる組織も、お客様から提示された問題についてご連絡を差し上げる場合にのみ、お客様が提供する個人情報を使用するものとします。
 - どうぞよろしくお願いたします。
 - 次の IBM Worklight Developer Edition サポート・コミュニティにご意見をお寄せください。
 - <https://www.ibm.com/developerworks/mobile/worklight/connect.html>
 - IBM からの回答を希望される場合は、以下の情報をご連絡ください。
 - 氏名
 - 住所
 - 企業または組織
 - 電話番号
 - Eメール・アドレス

ありがとうございました

